

在シドニー総領事通信

第 62 回 シドニー湾攻撃 80 年：記憶を未来に生かす

令和 4 年（2022 年）6 月 17 日



テイラー湾でのオグレイディ海軍准将・山上大使の献花後の黙禱
(2022 年 6 月 1 日)

シドニー市内で開催中の [Vivid Sydney](#) はご覧になりましたか？ 5 月 27 日から 6 月 18 日まで、オペラハウスやハーバーブリッジなど市内各所が美しい照明で彩られ、寒い中でも毎晩大賑わいです。

その間、日本軍特殊潜航艇のシドニー湾攻撃 80 年に際しての一連の関連行事が静かに行われ、関係者は未来に向けて平和への決意を新たにしました。今回の総領事通信では、シドニー湾攻撃 80 年関連行事について皆さんにご報告するとともに、その意義について皆さんと一緒に考えたいと思います。



シドニー湾防衛 80 年追悼式典でグリフィン NSW 州環境遺産大臣、
地元学生代表と（2022 年 5 月 27 日）

●シドニー湾防衛 80 年追悼式典

1942 年 5 月 31 日夜から 6 月 1 日未明にかけて、日本軍の特殊潜航艇がシドニー湾を攻撃し、豪側は水兵 21 名、日本側は乗員 6 名が犠牲者となりました。その経緯については、[2 年前の総領事通信](#)でご報告したとおりです。このシドニー湾攻撃から、今年で 80 年となります。

5 月 27 日、シドニー湾の北岬（North Head）のシドニー防衛記念碑（Defence of Sydney Monument）で、地元のグリフィン NSW 州環境遺産大臣の主催により、シドニー防衛 80 年追悼式典が開催されました。同地での式典は、1995 年の第二次大戦 50 周年に際してシドニー防衛記念碑が建立された後に始まったものです。

アボット元首相はじめ地元の連邦・州議員、陸海空軍、退役軍人会、地元市長・警察・学校など幅広い関係機関の代表が出席していました。私は日本代表として昨年引き続き出席し、豪州防衛のパートナーとして温かく迎えられました。



モスマン市立美術館での「ケン・ドーン：攻撃」展（2022年5月28日）

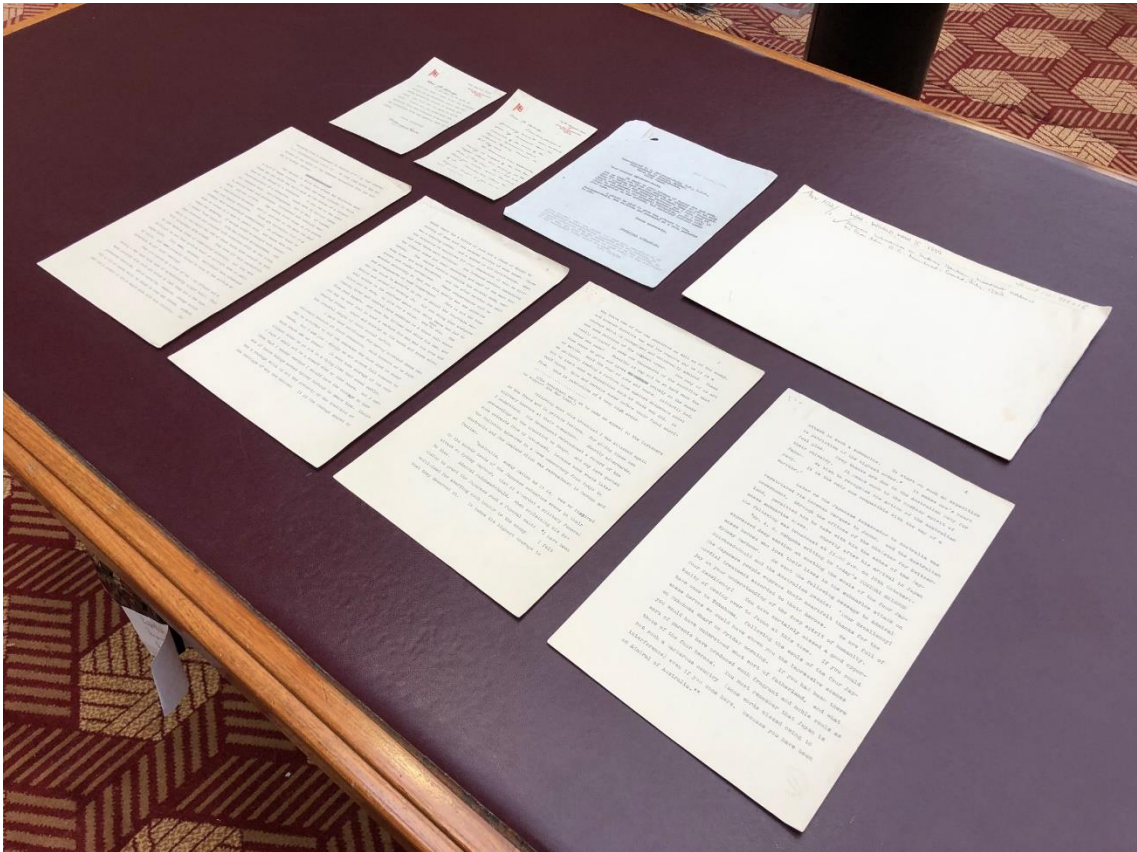
●「ケン・ドーン：攻撃」展

翌28日には、モスマン市立美術館で「[ケン・ドーン：攻撃](#)」展が開催され、私も招待を受けてケン・ドーン氏講演会の冒頭挨拶を行いました。

今から10年前、日本軍特殊潜航艇のシドニー湾攻撃70年に際して、モスマン市立美術館は地元画家のケン・ドーン氏に対して、同攻撃をテーマにした展覧会の開催を提案しました。ケン・ドーン氏は、戦争を描くのは初めてだったものの、シドニーにとって重要な史実であり、日本に強い愛着があったのでこれを快諾し、15点もの絵画を描いて展覧会を開催、[全作品を同美術館に寄贈](#)しました。

シドニー湾攻撃80年に当たる本年、モスマン市立美術館は全作品を再度展示し、ケン・ドーン氏による講演会とレセプションを併せ開催しました。モスマン市長をはじめ、地元市民を中心に約80名が出席する大盛況でした。

私の挨拶では、地元画家のケン・ドーン氏が、潜航艇乗員の心情や攻撃後の海軍葬など史実の全体像を絵画でわかりやすく説明したことは、歴史への理解を深める上で大きな貢献であり、今や日豪両国は自由で開かれたインド太平洋を実現するためのパートナーで、ウクライナ戦争を受けて両国の協力の重要性は一層高まっていると伝えました。



NSW 州立図書館所蔵のミュアヘッド＝グールド海軍少将ラジオ放送原稿
(2022年5月31日)

●NSW 州立図書館所蔵文書

翌週の5月31日、NSW 州立図書館に足を運び、以前から見たいと思っていた[ミュアヘッド＝グールド海軍少将ラジオ放送の原稿原本](#)を確認しました。

ミュアヘッド＝グールド海軍少将は当時シドニー湾防衛司令官でしたが、引き上げられた日本艇乗員4名の遺体を6月9日に正式な海軍葬に付し、その理由を7月下旬に国営ラジオ放送で説明しました。司令官はその中で、軍として榮譽を与えたのは、彼らの勇気が敵味方に共通する世界中で賛美されるべき勇気であり、彼らは最高の愛国者たちだったからだと述べています。

原本を見ると、ラジオ放送を行った後の日本側からの反応として、「豪州海軍の騎士道精神による扱いに深く感謝し、日本海軍の武士道精神はこれを多とする。豪州海軍の行動を評価する。これこそが武士道に通じるものである。」との追記がありました。これを読んで、当時のミュアヘッド＝グールド海軍少将の気持ちに思いを馳せました。

同 31 日晩には、ハモンド豪海軍艦隊司令官夫妻と山上駐豪大使夫妻、麻生防衛駐在官を公邸に招き、日豪の防衛・安全保障協力について意見交換を行いました。



豪海軍資料館で日本人学校代表と（2022年6月1日）

●豪艦艇クッタバル 80 年追悼行事

6月1日、クッタバル海軍基地で、豪艦艇クッタバル 80 年追悼行事が開催されました。最初に将官艇ハドソン号で、特殊潜航艇 3 隻のうち松尾艇 (M-22) が沈没したテイラー湾に移動し、オグレイディ (Paul O' Grady) 海軍准将と山上大使が艦尾から献花し、引き続き黙禱を行いました。

その後、基地の慰霊碑前で政府・軍・領事団他関係者が参列して追悼式典が行われました。攻撃で犠牲となった豪・英軍兵士 21 名の階級・氏名が地元豪州校の生徒により、特殊潜航艇乗員 6 名の階級・氏名がシドニー日本人国際学校の生徒により読み上げられ、献花が行われました。

式典後、基地内にある豪海軍資料館 (Heritage Centre) でモーニングティーが催され、参列者同士で交流を行いました。この資料館に展示されている特殊潜航艇の前には、犠牲となった松尾中佐の母が読んだ句「戦いのさ中に敵を弔いし尊き情とわに忘れじ」(I can never forget the chivalrous attitude of those who mourned enemy's war dead in the midst of war.) が掲げられていました。



NSW 州立図書館のミッチェル図書室 (2022 年 5 月 31 日)

●記憶を未来に生かす

今から 80 年前、日本軍の特殊潜航艇はシドニー湾を攻撃しました。その歴史は、はるかに昔のこととなりました。しかし、大切なことは、歴史の記憶を未来に生かすことではないかと考えます。

起きたことは変えられません。しかし、起きたことから学ぶことはできます。戦争当時に思いを馳せ、犠牲に胸を痛めるとともに、その犠牲があったからこそ今日の私たちがあると感謝することが大切と感じています。そのような気持ちこそが、今日の課題を乗り越え、将来の平和と繁栄のために努力する新たな決意を生み出します。

日豪両国は、80年前の対立を乗り越えて、和解と協力・交流を進め、「特別な戦略的パートナーシップ」を構築しました。この歴史の節目に過去を振り返り、未来に向けて生かしていきたいと思えます。

在シドニー日本国総領事 紀谷昌彦